

道徳の教科化への対応

「考え、議論する道徳」の実現と「成長を認め励ます評価」のために
「教師のねらい」を明確にしましょう



POINT① ねらいを設定する際には、内容項目を踏まえて「活動」と「付けたい力」を明確にしましょう。

〈ねらいの設定例〉

活動

付けたい力

○主人公の気持ちの変化を考えることで、**自分と異なる考えを尊重する態度**を養う。（内容項目：B相互理解、寛容）

『小学校（中学校）学習指導要領解説 特別の教科道徳編』の「第3章 道徳科の内容」には、**内容項目の概要や指導の要点、小学校での既習内容など**が詳しく書かれています。必ず確認してから指導するようにしましょう。



POINT② ねらいに迫るために、授業では3つの視点（気付く・考える・生かす）を大切にしましょう。

〈授業の基本的な流れの例〉

- ①主題（テーマや内容項目など）を確認する
- ②教材を読む
- ③ねらいに迫る発問について話し合う
- ④自己を見つめ、多面的・多角的に考える
- ⑤学び（新しくわかったことや考え方の変化など）を振り返る

気付く

（気付きの例）

・広い心をもつことは大切だが、実際は難しいな。 など

考え、議論する
深める

（発問の例）

・お互いが理解し合うためにはどうしたらよいか？
 ・自分だったらどうするか？ など

見つめる
生かす

（振り返りの記述例）

・今後、人と接するときには□□に気を付けたい。
 ・広い心をもつためには、〇〇という考え方も大切だ。 など

POINT③ 評価は、指導のねらいに即して、評価の方法を明確にして行いましょう。

〈児童生徒の成長を見取る視点〉

- 一面的な見方から多面的な見方へと発展しているか
 （例）自分と違う立場や考え方を理解しようとしている。 など
- 自分自身との関わりの中で深めているか
 （例）現在の自分を振り返り、自分の行動や考えを見直している。 など

〈評価の方法例〉

- 道徳ノートの活用
- 児童生徒が行う自己評価や相互評価の活用
- 発言や観察の様子 など

道徳科の評価を行う際には、**一人ひとりの成長を認めて励ます個人内評価**を行います。そうすることで、より「考えよう、議論しよう」という児童生徒の学ぶ意欲を高めることにつながります。

※POINT②③については、平成31年度に津山地区において使用される教科書（日文『小学道徳 生きる力』『中学道徳 あすを生きる』）を参考にして作成しています。

